

幼児教育の充実

【概況】

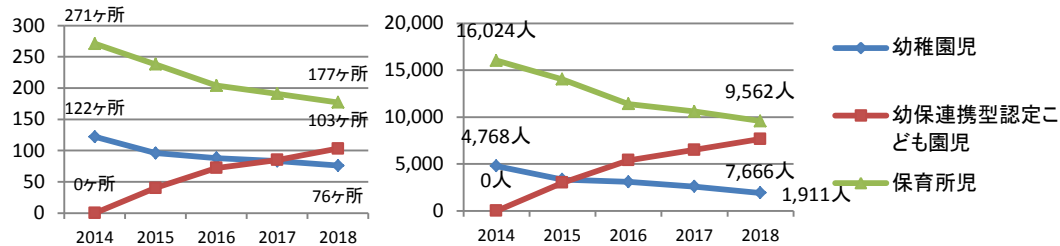
平成27年度に子ども・子育て支援法が施行され、多くの幼稚園・保育所が認定こども園に移行している。

幼児期の教育の重要性が世界的に高まる中、幼児教育の無償化が2019年10月からスタートする。

本県では、5歳児から小学校1年生までの「保幼小接続カリキュラム」を2015年3月に作成し、園と小学校の連携・接続を進め、「**学びに向かう力**」の育成を目指している。あわせて、幼児の保護者・祖父母を支援し、家庭の教育力向上を目指している。

◆幼稚園・幼保連携型認定こども園・保育所の数、在園者の数

(資料)「学校基本調査」(文部科学省)「福祉行政報告例」(厚生労働省)



◆幼稚園教諭の免許状保有状況(2016年)

(資料)「学校教員統計調査」(文部科学省)

全国：専修免許状 0.5%
 一種免許状 27.2%
 二種免許状 68.0%

◆児童のいる世帯の世帯構造(2016年)

(資料)「国民生活基礎調査」(厚生労働省)

三世帯世帯 36.1% (全国14.7%)
 核家族世帯 59.7% (全国80.5%)
 うちひとり親と未婚の子のみの世帯 4.2% (全国6.9%)

(成果)

市町幼児教育アドバイザー-認定者数：16市町88人(平成27~29年度)

平成29年度幼児教育フォーラム参加者数：663人(うち県外145人)

主な取組・成果

- 保育者と小学校教諭が互いに保育・授業を参観、幼児と児童の交流活動を実施
- 「市町幼児教育アドバイザー」を育成し、公私、園種を越えた公開保育や研修を実施
- 保護者対象の「家庭教育アドバイザー」による出前講座(入学までに身につけたい生活習慣など)
- 保護者自らが「一日保育士」を体験 ○テレビ放送等で参加型の家庭教育番組を提供
- 幼児と保護者を対象の由紀さおりさんによる「童謡で伝える会」を開催

今後の課題

新幼稚園教育要領等を踏まえたカリキュラムの見直しや、保育者の専門性向上に向けた研修が求められる。

幼児教育と小学校教育の円滑な接続をさらに推し進めるには、**小学校教員の理解促進**が重要である(小学校に担当教員を置くなど)。

就学時健診など、すべての保護者が集まる機会を活用した効果的な出前講座の実施が求められる。

小中学校教育の充実（1）

【概況】

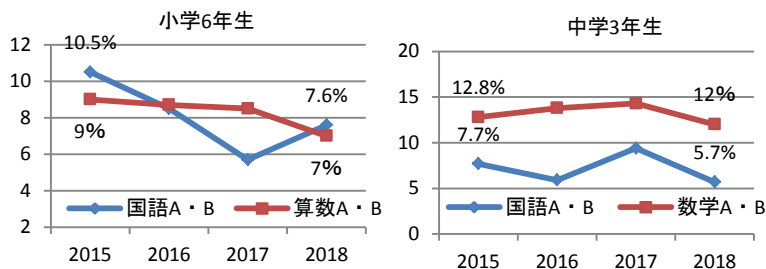
本県では、**日頃の課題を丁寧に指導**することで、基礎学力は定着している。理数教育、外国語教育、白川文字学など独自の教育を進めており、学力も全国トップクラスを維持しているが、全国平均との差は縮小傾向にある。

本や新聞、生活習慣など、保護者の働きかけが子どもの学力に影響を及ぼすという調査結果が出ている。本県の小中学生は、朝食、就寝時間などの**基本的な生活習慣を十分に身に付けている**。一方で、「朝の読書」など一斉読書の時間を設けているが、**普段の読書量に全国平均との差は見られない**。

先人の生き方を通じたふるさと教育や体験学習を軸としたキャリア教育に力を入れ、地域や社会をよくするために何をすべきかを考える児童生徒の割合は改善傾向にある。また、児童生徒の自己肯定感は増加しているが、**将来の夢や目標を持っている児童生徒の割合は横ばい**である。

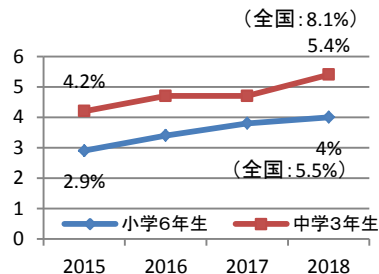
◆全国学力・学習状況調査の全国平均正答率との差

（資料）「全国・学力学習状況」（文部科学省）



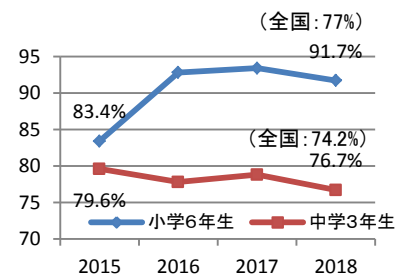
◆朝食を欠食する児童生徒の割合

（資料）「全国・学力学習状況」（文部科学省）



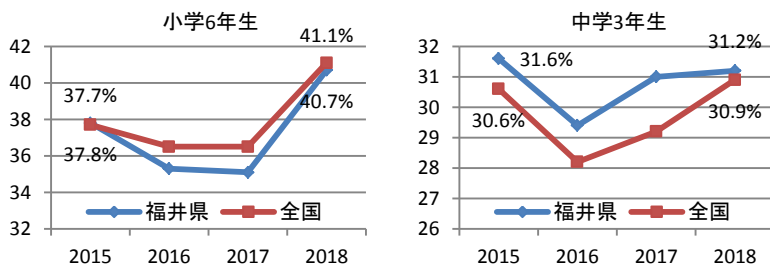
◆毎日、同じ時刻に寝ている児童生徒の割合

（資料）「全国・学力学習状況」（文部科学省）



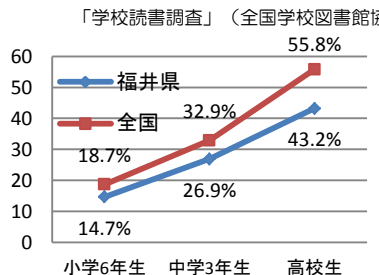
◆平日、1日30分以上読書している児童生徒の割合

（資料）「全国・学力学習状況」（文部科学省）



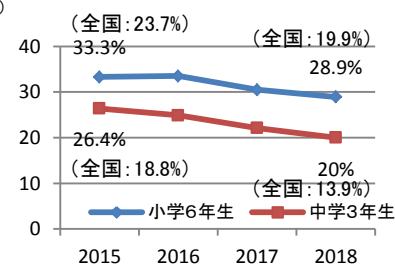
◆児童生徒の不読者率

（資料）「全国・学力学習状況」（文部科学省）



◆新聞を読んでいる児童生徒の割合

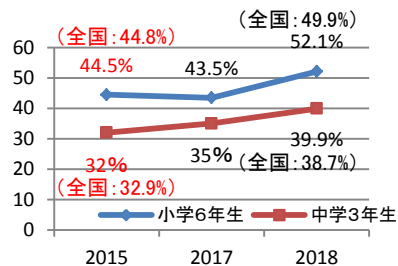
（資料）「全国・学力学習状況」（文部科学省）



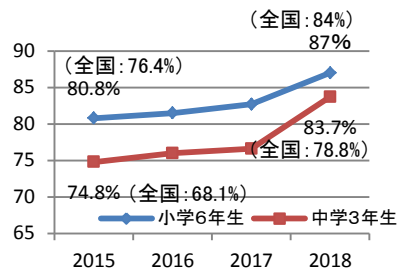
※ 学年が進むにつれ読書量は減少する傾向にある。

小中学校教育の充実（2）

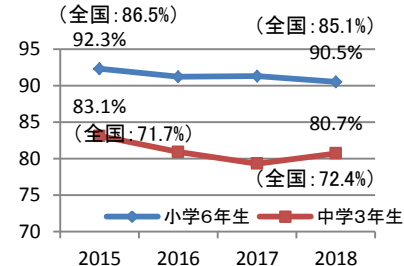
◆地域や社会をよくするために考える児童生徒の割合
（資料）「全国・学力学習状況」（文部科学省）



◆自分にはよいところがあると思う児童生徒の割合
（資料）「全国・学力学習状況」（文部科学省）



◆将来の夢や目標を持っている児童生徒の割合
（資料）「全国・学力学習状況」（文部科学省）



主な取組・成果

- 県独自の学力調査を実施・分析・活用
- 成果を上げている学校の効果的な指導方法や教材を収集、提供
- 小学校高学年で教科担任制（理）、中学校で習熟度別学習（数・英）を実施
- ふくい理数グループ「小学生部門」を新設
- 理科実験を双方向型でライブ配信
- 故・白川静博士が確立した「白川文字学」を活用した漢字教育を導入
- 「ふるさと福井の先人100人」、福井ゆかりの「古典音読・暗唱ノート」など独自教材を作成
- 地域の人材や企業と連携した企画提案型の体験学習を充実
- 小学校はすべて、中学校は9割以上が全校一斉読書を実施
- 小中学校の単元に沿った図書リストを作成
- 教員や司書が推奨図書を選定し、クラス全員分の図書を小中学校に巡回（年3冊）
- 保護者向けにリーフレットの発行と研修会を開催
- 「家庭教育相談・応援サイト」を開設

今後の課題

習熟度別学習を進めるためには、一人ひとりの理解度に応じた弱点補強や発展問題の提示が有効である（ICTを活用した「公正に個別最適化された学び」の提供など）。

児童生徒の興味・関心を多方面に広げられるよう、好奇心を刺激するようなカリキュラムの持たせ方を工夫し、自ら進んで学ぼうとする態度を養うことが重要である（高志中学校の「特別授業」など）。

児童生徒の読書量を増やすためには、学校図書館を活用した実践事例の収集と普及が重要である。

学校現場における業務改善

【概況】

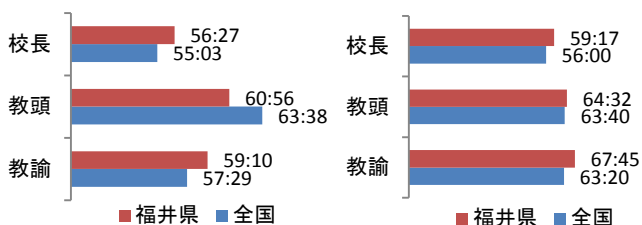
平成30年9月現在、小学校の1.7%、中学校の26.8%、高校の24.8%、特別支援学校の0.4%で時間外勤務が80時間を超えている。生徒数が大きく減っても、**部活動数は変化が小さい**（1部活当たりの教員数1.63名）。

今後10年で約4割の教員が退職を迎える中、高い求人倍率の継続や教員の勤務環境をめぐる問題が取り上げられ、**教員受験者数は減少傾向**（倍率は低下傾向）にある。

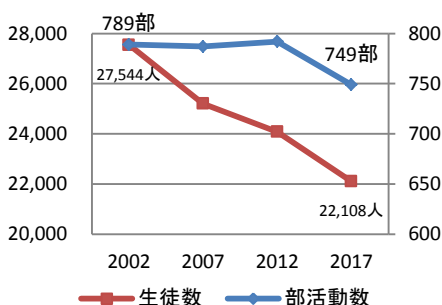
◆職種別教員の1週間当たりの学内総勤務時間（時間:分）

（左：小学校、右：中学校）

（資料）「教員勤務実態調査（H28）」（文部科学省）

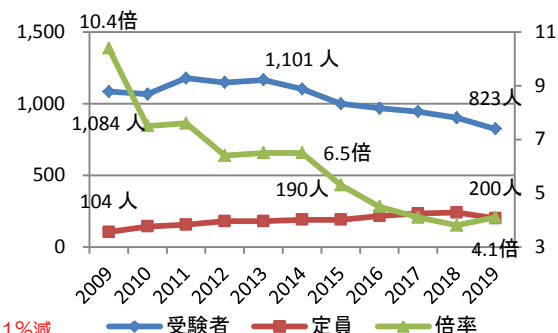


◆中学校の生徒数と運動部活動数の推移



※ 2002年度比で、生徒数は19.7%減。部活動数は5.1%減。

◆教員採用選考試験の状況



主な取組・成果

- 管理職による時間管理の徹底
- 長期休業中に学校閉庁日を設定
- 20時以降の電話相談を専用窓口で対応
- 部活動の負担軽減（休養日の拡大、共同管理体制の導入、退職教員・地域指導者の活用）
- 県内外の大学等での教員採用選考試験説明会、教員志望者セミナーを実施
- 校務支援システムを整備し、成績処理や出欠管理などの校務を効率化
- 配布物の印刷や会議の準備などを支援する非常勤職員の配置
- 遠隔システムや通信型研修など受講方法を工夫

◆教員の年齢別構成（2018年度）50代：42% 40代：25.7% 30代：20.7% 20代：11.6%

今後の課題

地域によって、**外部人材や予算の確保が課題**となっている。

学校や教師が担う**業務の明確化・適正化**の観点から、県として「**業務改善方針（管理職の研修、施策の精査・精選、部活動数の削減・地域クラブとの連携など）**」の策定、指導助言が求められる。

受験者数を増やすためには、学校の勤務環境を改善するとともに、**教職の魅力**を広く発信することが重要である。